

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月2日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870500810
事業所名	グループホームおてだま
(ユニット名)	紙ふうせん
記入者(管理者)	
氏名	岩井彰子
自己評価作成日	令和1年 9 月 2 日

<p>【事業所理念】 一人一人に寄り添って その人らしく生き生きと 地域とのつながりを大切に</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 17年前に既存の建物を活用し、介護老人福祉施設や介護老人保健施設なども含んだ複合施設として地域の高齢者福祉に取り組んでいる。職員は利用者のできることやできそうなことを大切に支援しており、洗濯物干しや調理の手伝いをしてもらった時には必ず感謝の言葉を伝える等、利用者が張り合いや喜びを持って暮らせるよう配慮している。建物内は利用者に分かりやすいように文字や色でトイレ等の場所を表示して工夫しており、安心して自立した生活が送れるようにしている。</p>
--	---------------------------------	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	普段の会話や家族に意向を尋ね、希望意向の把握に努めている。	◎	/	○	入居時面接や、居宅介護支援事業所からの情報で、利用者の思いをくみ取っている。入居後も日々の関わりの中で得られた情報を集めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の表情や顔色、行動で検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時に本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日誌や申し送りに記録し、共有情報としている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	カンファレンスで検討し常に利用者の思いを考慮している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時に家族やケアマネから情報を収集している。	/	/	○	利用者の生活歴や人間関係、暮らしの様子などの情報を事前に家族など関係者から収集し、入居時面接調査票に記入している。入居後も利用者との関わりや家族の面会時等に新たに得られた情報を、その都度追記して申し送りしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	毎日の生活の中で観察し職員間で話し合い、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	毎日の関わりの中で把握できている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	職員間で常に話し合いを持ってカンファレンスで検討し把握するようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートの作成やアイバットの入力で把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	職員や家族と話し合ったり、カンファレンスで検討している常に本人の視点で考えて検討している。	/	/	○	入居前から利用者に関する情報をまとめ、約1か月の期間を使って職員に周知するようにしている。職員はその情報を基に、ケアカンファレンスで意見を出している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人や家族、職員と話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	カンファレンスで課題を明らかにしてケアの方針を決めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の話を聴いたり思いをくみ取って生活観察しながらの計画になっている。	/	/	/	月2回実施しているケアカンファレンスには家族の参加もあり、利用者の日々の暮らしにおける思いを踏まえた関わりや支援について共に検討を行っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人と話したり家族や親族などの意見を尊重しながら作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	出来るだけ今までの生活が継続出来るようにプランを考えている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力を盛り込んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日の記録はケアプランに基づいて記録し確認している。	/	/	◎	日誌と申し送りノートには、見たことを確認できるサイン欄があり、職員間の情報共有はしっかりとできている。介護計画に沿ってケアが実践できたかは「24時間シート連動ケース記録」に詳しく記録し、日々の支援に繋がっている。利用者の言葉や行動、職員の気づきやアイデアは、日誌や申し送りノートに記録している。利用者の言葉は職員によって感じ方が違うため、そのまま書くようにしており、そこから利用者の興味や気になることをくみ取っている。9月からはタブレット端末を使って効率的に記録し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケアプランの実施の記録を毎とり、状況確認を行い日々の支援に繋げている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者個別に支援の内容を記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	一人一人について個別に記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	特変がなければ介護計画の期間内でも直しをしている。	/	/	◎	6か月を基本として介護計画を見直している。利用者の状況については毎月確認し、モニタリングを行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、介護計画を見直して現状に即した計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回は見直しをして確認し、記録している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	心身の変化があった時は見直しを行い新たな計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	カンファレンスを定期的に行っている。緊急案件がある時は職員間で話し合いをもっている。	/	/	○	月2回のケアカンファレンスは、職員や家族が参加して行っている。参加できない職員には事前に意見を出してもらい、検討した結果を申し送りや議事録で伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	常に活発な意見交換が出来るように日頃から努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	出来るだけ職員みんなが参加できるように日時を工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成し、閲覧したり重要な事柄は再度申し送るようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	大切な事は申し送り簿に記入し意見があれば検討している。	/	/	◎	毎朝の申し送りのほか、日誌や申し送りノートの確認と口頭での状況説明などで情報共有している。日誌や申し送りノートには見たことを確認できるサイン欄があり、閲覧後にサインして確実に情報が伝わるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日々の申し送りは出勤時に必ず確認し緊急の時は電話で連絡している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	希望を聞き出来るだけかなえるよう努力に努めている。	/	/	/	塗り絵や漢字探しなど、日中にとこのような活動をするかは利用者が自分で決めている。調査時には食後の飲み物を利用者が選んでいる姿を見ることができた。洗濯物干しや居室の掃除、調理の手伝いを希望する利用者には声をかけて行ってもらい、必ず感謝の言葉を伝えており、利用者は張り合いや喜びを持って暮らしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	色々な場面で選択できるように機会を作っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	希望や要求を探りながら納得出来るように支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースに合わせた支援をしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	活き活きた言葉や表情を引き出せるように声掛けしたり雰囲気づくりをしている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	本人の表情や行動から出来るだけ心地良い時を過ごせるように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	人権意識を常に考えながら尊厳を大切にされたケアとは何かを考えて対応している。	◎	◎	○	職員は人権や尊厳について研修で学び、利用者の誇りを大切にしながら支援している。トイレ誘導時の声かけは、利用者が動きそうなタイミングを見計らい、さりげなく行っている。居室に入る際にはノックや声かけをするように心がけているが、ノックをしないで入ることもあるため、利用者専用の場所であることを改めて理解し、プライバシーに配慮するよう努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	利用者が不快な思いをしないように自然に過ごせるようにさりげない支援を心がけている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	ドアをしめたりカーテンを利用したりしてプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室する時はノックをしたり、声掛けし許可を得ている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	カンファレンスやスタッフ会で学習し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	得意な事を教えてもらったり、ともに楽しめる関係性を築いている。	/	/	/	食堂では利用者同士の相性を踏まえて席を決めている。日常においてもトラブルになる前に職員が仲介するなど、利用者同士良い関係が築けるように配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いに助けるような機会を作っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士のトラブルは出来るだけ未然に防げるように介入したり、仲の良い利用者同士は座る位置を配慮したりして支援している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルは事前に回避できるようにしたり、トラブルが発生したら速やかにさりげなく回避できるようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人との会話やケース記録、家族の話などで把握している。	/	/	/	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	ケース記録や、本人、家族から聞いて把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所に出かけたりよく行っていたスーパーや美容室を利用したりして関係が続くようにしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会者には湯茶、テーブルなどを提供し過ごしやすくする工夫をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	毎日屋上棟内などの散歩を行っている。できるだけ行きたいところに行けるように支援している。	△	○	○	毎日屋上や施設内の他ユニットなどを散歩し、歩いて5分程度の公園にも出かけている。重度の利用者を含め、できる限り屋外に出て、気分転換ができるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	時々近所に住む友人や親せきの人が外出支援をしている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車いすなどで散歩やイベント参加に取り組んでいる。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	長距離の支援は少ないが色々な行事、見学などには家族、友人などの協力を得て支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症については常に学習している。一人一人の状況を観察分析し対応している。	/	/	/	手伝いやレクリエーションに関しては、誰が何をできるか、何をすれば喜んでもらえるかなどを考えた上で、職員は待つことも重要であると理解して対応している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の身体状況の変化を常に観察しながら機能の維持向上に向けたケアを提供している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	待つことを大切にしながら出来ない事はさり気なくフォローしている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者個々の楽しみを把握しており活躍できるような場面を作っている。	/	/	/	編み物や絵を描くことなどの楽しみに関する希望を利用者からの聞き取って把握し、日々できるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	認知症が重度になっても継続して生きた生活役割などが出来るだけ続けられるように内容を替えたり出来る事を探し取り組んでいる。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域行事の参加等支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者それぞれのおしゃれや身だしなみを把握している。				衣服の汚れや乱れがある時は、他の利用者に気づかれないように、さりげなく声をかけてカバーしている。重度の利用者を含め、髪型をきれいに整えて清潔感があり、アクセサリーやブローチなどをつけておしゃれも楽しんでる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人の好みを大切にしてそのように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の気持ちを尊重して支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	その人らしい服装を楽しめるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	清潔に気をつけてプライドを傷つけないように声掛けている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人の希望を聞いて望む店に行けるように努めている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	本人らしさを保てるようにおしゃれにも気を遣いながら支援している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	昼食と一緒に作り、一緒に食卓廻りを囲み生活の質の向上に努め食事の大切さを理解している。				利用者の希望を聞きながら献立を立て、利用者には食事の下ごしらえや食後の食器洗いなど、できることをしてもらっている。献立には季節感のあるものや、昔懐かしいものを取り入れている。利用者は使い勝手の良い箸やスプーンを使用している。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、サポートしながら同じものを食べている。リビングの中に厨房があるため、重度の利用者を含め、調理の音や匂いを感じることができるようになっており、献立や味付けなどの話をする中で、食事が待ち遠しくなるようにしている。献立は法人の栄養士にアドバイスを受けているほか、職員間でも利用者の栄養面について話し合い、バランス良く栄養が摂れるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	献立作りから後片付けまで利用者と一緒にやっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	利用者と一緒に食事作りや後片付けをしながら感謝の言葉、態度を常に表わして自身や達成感に繋げている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	一人一人の好みや嫌いな物、アレルギーなどを把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節感のある献立、昔からの伝統食など利用者にとって懐かしいものを取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	常に健康状態を把握しながら、嚥下の機能も見極めながら美しく美味しくそうな盛り付けを工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個人の好みに合わせたり、使い慣れたものを持参してもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一緒に同じテーブルで食べながらさりげなく利用者の様子を観察し食べ方の混乱や食べこぼしなどのサポートをさりげなく行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	調理をしている同じホールにいたので、調理の音や匂いなどを感じてもらっている。食事中はBGMを流したりその日の食事の内容について話したりして意欲を上げるように配慮している	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一日を通して水分摂取量と食事摂取量を記録しており管理栄養士のアドバイスも参考にしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量や水分量が少ない利用者には好みのものを勧めたり栄養補助食品を摂取してもらっている。頻回に摂取を促す事もあり1日1000CCは水分確保している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	メニューは管理者がチェックしており同一敷地内にある施設の栄養士にアドバイスを受けている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日新鮮な材料を購入しており、手洗いの励行、ビニール手袋の使用など衛生管理には注意している。				

愛媛県グループホームおてだま

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後の口腔ケアは欠かさず行い口腔ケアの重要性は理解している。				食後の口腔ケアは、利用者が自分でやっているが、職員は見守りながら口腔内の観察を行っている。常日頃から口腔内をチェックし、清潔感が保持できるようにしており、口腔内に異常などがある時は、すぐに訪問歯科を受診するなど、口腔ケアには万全を期している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの介助をしながらよく観察し把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診察の歯科医から情報を得て日常の口腔ケアに生かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	利用者の出来るところは声掛けにて支援し、難しそうな部分は介助しながら口腔内の状態に気を付けている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	歯科を受診したり、訪問診察を利用したりしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易にオムツを使用しないで出来るだけ普通の下着を使用するようにしている。				1日を通して布パンツにパッドを使用している利用者や、紙パンツを外出時や夜間に使用している利用者が多い。トイレで排泄してもらえよう、利用者の様子を見ながらの対応を心がけており、利用者が力を入れて落ち着きがなくなった時などを見計らい声をかけてトイレに誘導している。便秘の利用者が多く、水分摂取や運動、便秘に効くセンナ茶を取り入れる等便通改善にも取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	毎日の申し送りやカンファレンスで便秘の弊害について理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	24時間の記録の中で細かく記録するよにして、パターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	毎日の記録を参考に出来るだけ快適に排泄出来るように支援している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	常にカンファレンスで話し合った職員間、訪問看護師とも相談して改善に向けた取り組みをしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄の記録を見ながら失敗をしないように早めの誘導、声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人や家族と話し合いながら検討し使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて適切と思われるものを使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ヨーグルトや食物繊維の多い商品を選択したり、毎日散歩や体操を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ利用者の希望に添うようにし毎日入りたい利用者は毎日入浴しているが、夜間浴は難しい。	◎		◎	入浴は週2回を基本に支援している。利用者の希望があれば、毎日入浴したり、入浴日を変えたりして臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	一人一人がゆっくり入れるように支援している。焦らずようなことはしないで十分待って入浴してもらっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る場所は見守りながらや少しの介助で入浴できるようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	職員が交代したり時間をずらして声掛けしたりして気持ちよく入浴できるように工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックをして健康状態を見極めながら入浴の可否を決める。入浴後も水分補給を促しながらようすを観察している。				

愛媛県グループホームおてだま

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	24時間の記録の中で入眠、覚醒時間の確認と1時間ごとの巡回で睡眠パターンを把握している。	/	/	/	日中利用者には活動的に過ごしてもらうようにしており、できる限り薬に頼らないようにしている。夜間は1時間ごとに利用者の睡眠状態を確認し、不眠が続いている場合は、医師に相談して適切な指示を受けて対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	不眠の原因を検討してできるだけ日中の活動性を上げて一日のリズムを整えるようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	出来るだけ薬に頼らず職員で検討しながら医師にも相談しながら総合的な支援をしている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて休息を促したりしながら取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	希望に添えるよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	はがきの表書きをして支援したり電話の支援をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	返事を促したり、はがきや便せんなどを用意している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には理解を求めて依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を使うことを支援している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	職員と一緒に買い物に行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近隣のスーパーでは協力を得られている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談してできるだけ希望を叶えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	家族及び本人と話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的には預り金はないようにしているがやむ負えない場合は出納帳などに記入し家族の同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来るだけ本人や家族の要望を聞けるよう取り組んでいる。	◎	/	○ 家族に会いに行ったり、墓参りをしたり、コンサートや展示会の鑑賞をしたりして、利用者の要望に柔軟に対応している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関には花を生けたり置き物を置いたり、日中は玄関は開放している。	◎	◎	○	玄関には生け花や絵があり、ユニット間を結ぶ空間には卓球台やベンチなどが置かれ、くつろげる空間となっている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	花を生けたり、カレンダーやタペストリーをかけたたりして心地よい雰囲気作りを心がけている。	◎	◎	◎	共用空間はゆっくり落ち着いた雰囲気になっており、窓からの眺めも良く、四季の移ろいを感じることができる。ユニットには畳のコーナーがあり、利用者は座って洗濯物をたたんだり、ゆっくり会話したりしている。掃除が行き届き、清潔感がある。季節の生け花や手芸作品、折り紙細工を飾り、居心地の良い空間を作っている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は毎日行い音やにおいなどにも注意している。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活感を大切に季節の花を飾ったり、年中行事のものを置いたりしている。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	和室を活用している。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	ドアをしめたりカーテンを利用したりしている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入所時には使い慣れたものの搬入を促しその後も家族と相談しながら好みのものなどを用意している。	◎	/	◎	居室にはベッドやたんすなどが備えつけられており、利用者は家族の写真や思い出の品などを持ち込み、過ごしやすいようにしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	出来るだけ自立できるように文字で示したり歩きやすいように工夫している。	/	/	◎	建物内は文字や色で案内表示し、利用者に分かりやすいように工夫しているほか、居室を利用者が自分で掃除できるようにするなど、安心して自立した生活が送れるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	利用者が混乱や失敗ないように工夫している。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	リビングや台所などに安全に考慮しながら馴染みのものや好みのものをさりげなく置いている。	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中、ユニットの玄関や居室の窓は施錠はしていないが建物全体に電子ロックがあり解錠が困難である。	◎	○	△	職員は研修等により、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中ユニット間の出入口は施錠されておらず、自由に行き来できるようになっているが、建物全体のエレベーターに電子ロックがあり、職員でなければ解錠が困難なため、今後は利用者が自由に外に出られるように工夫して欲しい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	◎	家族には施錠しないことの理解をしてもらえよう話している。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	出来るだけ外出支援をしたり散歩に行ったりと自由に暮らしていけるように支援している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	ケース記録やファイルで利用者一人一人の情報を正確に把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	常に体調を観察しており変化があれば看護師に伝達し記録にも残している。				
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	変化があれば看護師に相談したりかかりつけ医に受診したりできている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人および家族の希望を大切にしている。かかりつけ医との関係を築くよう受診介助をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は速やかに報告し家族と相談し合意を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にはサマリーを作成し注意事項を伝達している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時には頻回に面会をして情報を収集し早期退院を実現している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期受診などで関係を作っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	身体状況に関する些細な変化でもその都度訪問看護師に伝えて相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制を整えて24時間対応できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日ごろから毎日の身体状況を確認し記録をとっている。異変があれば看護師に相談し対応し早期発見、受診に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤情報をよく理解し副作用などには特に注意している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬の危険性を理解してそれを防ぐために職員2名で名前、服薬時間の確認など工夫をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬に関しては専門医と相談しながら日常の観察を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	新しい薬を服薬した時や何か変化が見られる時は記録し看護師や医師に情報提供している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入院時に説明し、その後状態に変更があれば、本人、家族と話し合いながら、方向性を決めていく。	/	/	/	看取りの指針や重度化した場合の対応の方針があり、実際に看取り支援を行う場合は、利用者や家族、主治医、看護師、介護職員などの関係者で話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化、終末期に関しては主治医とも話し合い検討している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	利用者の状態を見極めながら、職員とも話し合い、現在の職員の力量を見極めて検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	十分な説明を行っており理解を得ていると思う。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	訪問看護、医師、職員、家族などとの連携を取りながらの体制をとれるように検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の話の聞き出来るだけ葛藤や不安を取り除くように支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症について定期的に学習会をしたり研修に行ったりしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを準備したり感染症対策の物品を常に用意している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染症センターからの発生状況、対策などを職員に周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市のホームページや県の感染症情報などから情報の収集をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は感染予防マニュアルに沿った手洗いやうがいを、利用者、面会者にも手洗い、手指消毒などを行ってもらっている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族と利用者をいかに支援するかを常に話し合いながら、家族の気持ちに共感し、ともに支えられる環境を築いている。	/	/	/	花火大会やお祭り、利用者の誕生日などのイベントの際には家族に案内し、一緒に食事をして楽しんでもらうようにしている。家族には定期的に手紙や写真を送り、利用者の様子を報告している。事業所の設備改修などの運営面は、その都度報告して理解を得られているが、職員の異動や退職については、一部の家族に伝わっていないため、今後は広報誌に職員のことを記載して送るなど、工夫した取組を期待したい。家族の面会時には、必ず声をかけて利用者の様子を伝えるなど、話しやすい雰囲気づくりに努めており、家族から気軽に相談を受けている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族が面会に来られた時にはお茶を提供しゆったり過ごしてもらえるような雰囲気を作っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	外出行事や散歩など参加する機会を作り呼びかけもしている。一緒に昼食をとる機会も作っている。	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的に手紙を出したり、写真を送付したり、電話で報告して日常の様子を伝えている。	/	○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族の意向、思いを理解したうえで利用者の現状を報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症に対する理解を深めてもらったり一緒に行事に参加してもらったりしながら家族との良い関係を築けるように支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事や設備改修などは報告しているが、職員の異動、退職はすべての家族には報告できていない。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事などを通して交流が図れるようにしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	入所時に説明を行い、何か機会があるたびにリスクと支援の兼ね合いを話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	◎	日頃から出来るだけコミュニケーションを取るよう心掛けている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	説明し理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族に事前に退去についての説明を丁寧に行っており納得いく退去先を支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書で示し説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などで説明し、理解を図っている。	/	◎	/	事業所の周辺にあるスーパーや飲食店に行き、買い物や食事を楽しんでいるほか、行きつけの美容室を利用するなど、利用者が普段から地域と関わりながら暮らせるようにしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	散歩に行ったり近所の店や美容室を利用したりと日ごろから地域の中で暮らす機会を持っている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	近所の店や美容室など顔見知りになった地域の人には支援してもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	建物の構造上気軽に立ち寄ることは難しい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外出時は挨拶したり話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	お話会やオカリナ演奏など、定期的に支援してもらえたり、友人が外出支援することもある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	美容室、喫茶店、店、図書館など地域にある色々な資源を把握し利用者の思いや、要求に合わせて支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	地域のイベントや商店街の催しなどにも出かけていき、参加したり情報を得たりしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加している。	×	/	△	運営推進会議には地域の協力者や家族の参加があり、サービスに関する説明などを行っているが、参加者が少なく固定化しているため、会議に参加しやすいように日程を調整することや、興味や関心の持てる議題を考えるなど、工夫した取組みを期待したい。会議では、外部評価の取組み状況などについて報告し、参加者から得られた意見を踏まえて、日々の運営に活かせるように話し合っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告、説明している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	運営推進委員からの提案や意見を取り入れて、行事やケアに生かしながら取り組んでいる。取組内容と結果報告を行っている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	出席しやすい時間帯、日程に調整している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	カンファレンスや職員会などで理念をこたえることに説明し理解して日ごろのケアに生かしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	グループホームの玄関に理念を掲げ機会を見て伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	可能な限り切り色々な研修に参加するようにしている。	/	/	/	代表者は、職員が毎月の法人内研修や、外部研修に参加できるようにしており、職員のスキルアップやモチベーションアップにもつなげている。職員に日々のストレスが溜まることのないよう管理者やユニットの責任者に気を配るように指示しているほか、年1回のストレスチェック体制を整備するなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	年間計画を立てて研修を行い現場で学習できるように取り組んでいる	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めていると思われる	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	愛媛県地域密着サービス協会への参加や市の組織にも参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいると思われる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修会を行ったり、カンファレンスを行ったりして理解している。	/	/	/	職員は虐待防止に関する研修などを受け、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について理解・共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎日ケアについて意見を交わしたり話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	カンファレンスや職員会にて話し合い改善するようにしている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日常的に声をかけたり、出来るだけ話を聞いてストレスの軽減に努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	職員会やカンファレンスなどで学習し理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	カンファレンスや日常のケアのなかで話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族に対しても身体拘束について説明し理解を図っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	制度についてある程度は学習している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	家族の相談にのったり、情報を提供している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	申し出があった時には専門機関との連携をとっている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に講習を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	職員で検討し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	センサーマットの活用や、嚥下状態など検討し事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	手順に沿って対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があれば速やかに対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	苦情箱を設置したり、話し合ったりする機会を作っている。			○	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞き、家族からは運営推進会議や面会時に意見などを聞いている。管理者は職員会議で職員からの意見を聞いているほか、日々の仕事の中でも伝えられる関係ができており、職員から得られた意見などを運営に活かせるように話し合う機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情箱を設置したり、話し合ったりする機会を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	公的な窓口の情報提供を相談があれば行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	時々聞くことがある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員と話し合っているいろいろな提案について検討している。			◎	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の目的を理解し年1回は全員で自己評価に取り組んでいる。				サービス評価は職員も参加し、管理者が内容をまとめている。サービス評価の結果や改善点については、今後の運営に活かせるように職員会議で話し合い、その結果を運営推進会議で報告し、参加者からは具体的に意見を出してもらうなど、取組みのモニターをしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	カンファレンスで課題を確認したり、学習の機会として取り組んでレベルアップにつなげている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議などで取り組みを報告し意見をもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員会や運営推進会議で成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	防災マニュアルを作成して回覧し周知している。				防災に関する訓練は年2回避難訓練や消火訓練を実施しているが、想定する訓練内容が固定化している。備蓄は法人として3日間程度備えている。今後は防災に関する訓練時に得られた感想などを踏まえ、地域と合同で避難訓練に取り組むなど、緊急災害時に利用者の安全確保に万全を期すことができる協力体制の構築に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の避難訓練に参加している。	x	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	自治会の避難訓練に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症を考える会で講演会を企画したり、実践報告を行った。				地域の高齢者に対する相談窓口として法人全体で取り組んでいるが、地域の相談ニーズを充足するほどの相談支援には至っていないため、今後は事業所の特色を地域によりPRし、地域の相談拠点となる事業所を目指して欲しい。オレンジカフェを法人ソーシャルワーカーの協力のもと、市や地域包括支援センターなどと連携して取り組んでいる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営推進会議などで相談支援を行っている。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生の受け入れに協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括支援センターと連携をしたり、他事業所とイベントを行っている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月2日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870500810
事業所名	グループホームおてだま
(ユニット名)	竹とんぼ
記入者(管理者)	
氏名	岩井彰子
自己評価作成日	令和1年9月2日

<p>【事業所理念】 一人一人に寄り添って その人らしく生き生きと 地域とのつながりを大切に</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 17年前に既存の建物を活用し、介護老人福祉施設や介護老人保健施設なども含んだ複合施設として地域の高齢者福祉に取り組んでいる。職員は利用者のできることやできそうなことを大切に支援しており、洗濯物干しや調理の手伝いをしてもらった時には必ず感謝の言葉を伝える等、利用者が張り合いや喜びを持って暮らせるよう配慮している。建物内は利用者に分かりやすいように文字や色でトイレ等の場所を表示して工夫しており、安心して自立した生活が送れるようにしている。</p>
--	---------------------------------	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>◎ 普段の会話などから推し量ったり、家族に意向を尋ねたり、希望意向の把握に努めている。</p> <p>◎ 本人の顔色や表情、行動で想像し、検討している。本人がどう思うかを考えて検討している。</p> <p>◎ 面会時に家族と本人の思いについて話し合っている。</p> <p>◎ 日誌や申し送り簿、ケースカンファレンスの議事録などを共有情報としている。</p> <p>◎ カンファレンスで検討し常に利用者の思いを考慮している。</p>	◎				○	入居時面接や、居宅介護支援事業所からの情報で、利用者の思いをくみ取っている。入居後も日々の関わりの中で得られた情報を集めている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎ 入所時に家族やケアマネから情報を収集している。</p> <p>◎ 日々日常生活の状態を観察して記録している。</p> <p>◎ 表情や動作などを観察し、把握している。</p> <p>◎ 不安や不安定は常に考えて、把握に努めている。</p> <p>◎ アイバットを活用し、日々の把握をしている。</p>	◎				○	利用者の生活歴や人間関係、暮らしの様子などの情報を事前に家族など関係者から収集し、入居時面接調査票に記入している。入居後も利用者との関わりや家族の面会時等に新たに得られた情報を、その都度追記して申し送りしている。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>◎ 職員や家族と話し合ったり、カンファレンスで本人の視点で考えて検討している。</p> <p>◎ 本人や家族、職員と話し合っている。</p> <p>◎ カンファレンスで課題を明らかにしてケアの方針を決めている。</p>	◎				○	入居前から利用者に関する情報をまとめ、約1か月の期間を使って職員に周知するようにしている。職員はその情報を基に、ケアカンファレンスで意見を出している。

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の話を聴いたり思いをくみ取って生活観察しながらの計画になっている。	/	/	/	月2回実施しているケアカンファレンスには家族の参加もあり、利用者の日々の暮らしにおける思いを踏まえた関わりや支援について共に検討を行っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人と話したり家族や親族などの意見を尊重しながら作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	出来るだけ今までの生活が継続出来るようにプランを考えている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力を盛り込んでいる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日ケアプランに基づいて記録し確認している。	/	/	◎	日誌と申し送りノートには、見たことを確認できるサイン欄があり、職員間の情報共有はしっかりとできている。介護計画に沿ってケアが実践できたかは「24時間シート連動ケース記録」に詳しく記録し、日々の支援に繋がっている。利用者の言葉や行動、職員の気づきやアイデアは、日誌や申し送りノートに記録している。利用者の言葉は職員によって感じ方が違うため、そのまま書くようにしており、そこから利用者の興味や気になることをくみ取っている。9月からはタブレット端末を使って効率的に記録し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケアプランの実施を毎日取り、職員間で状況確認を行い日々の支援に繋げている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者個別に支援の内容を毎日記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	一人一人について個別に日誌や申し送りに記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	特変がなければ介護計画の期間内で見直しをしている。	/	/	◎	6か月を基本として介護計画を見直している。利用者の状況については毎月確認し、モニタリングを行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、介護計画を見直して現状に即した計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月末に現状確認し、記録している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	心身の変化があった時は見直しを行い新たな計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	カンファレンスを定期的に行っている。緊急案件がある時は職員間で話し合いをもっている。	/	/	○	月2回のケアカンファレンスは、職員や家族が参加して行っている。参加できない職員には事前に意見を出してもらい、検討した結果を申し送りや議事録で伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	意見を言いやすい雰囲気、活発な意見交換ができている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	出来るだけ多くの職員が参加できるように日時を工夫している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	申し送りや議事録の回覧で伝える仕組みを作っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りなどで確認できている。	/	/	◎	毎朝の申し送りのほか、日誌や申し送りノートの確認と口頭での状況説明などで情報共有している。日誌や申し送りノートには見たことを確認できるサイン欄があり、回覧後にサインして確実に情報が伝わるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日々の申し送りは出勤時に必ず確認し緊急の時は電話で連絡している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	希望を出るだけかなえるよう努力に努めている。	/	/	/	塗り絵や漢字探しなど、日中にとこのような活動をするかは利用者が自分で決めている。調査時には食後の飲み物を利用者が選んでいる姿を見ることができた。洗濯物干しや居室の掃除、調理の手伝いを希望する利用者には声をかけて行ってほしい、必ず感謝の言葉を伝えており、利用者は張り合いや喜びを持って暮らしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自己決定できる機会を作り、選べるまで待つようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定できたり、納得出来るように支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースに合わせた支援をしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	活き活きた言葉や表情を引き出せるように声掛けしたり雰囲気づくりをしている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や、全身の反応をキャッチして意向に沿うように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	人権を常に考えながら尊厳を大切にしたいケアとは何かを考えて対応している。	/	◎	◎	職員は人権や尊厳について研修で学び、利用者の誇りを大切にしながら支援している。トイレ誘導時の声かけは、利用者が動きそうなタイミングを見計らい、さりげなく行っている。居室に入る際にはノックや声かけをするように心がけているが、ノックをしないで入ることもあるため、利用者専用の場所であることを改めて理解し、プライバシーに配慮するよう努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者に対して誘導する時はさりげない声掛けをして、自然に感じる支援を心がけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	ドアをしめたりカーテンを利用したりしてプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室する時はノックをしたり、声掛けし許可を得ている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	カンファレンスや職員会で学習し、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	昔の行事や、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しめる関係性を築いている。	/	/	/	食堂では利用者同士の相性を踏まえて席を決めている。日常においてもトラブルになる前に職員が仲介するなど、利用者同士良い関係が築けるように配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いに助けあえたり、なにかと協力できるような場面を作っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士のトラブルは出来るだけ未然に防げるように介入したり、仲の良い利用者同士は座る位置を配慮したりして支援している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルは事前に回避できるようにしたり、トラブルが発生したら速やかにさりげなく回避できるようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人との会話やケース記録、家族の話などで把握している。	/	/	/	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	ケース記録や、本人、家族から聞いて把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	できるだけ馴染みの場所に出かけたり、よく行っていたスーパー、喫茶店や美容室を利用したりして関係が続くようにしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会者には湯茶、テーブルなどを提供し過ごしやすくする工夫をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	毎日屋上、施設内などの散歩を行っている。できるだけ行きたいところに行けるように支援している。	△	○	○	毎日屋上や施設内の他ユニットなどを散歩し、歩いて5分程度の公園にも出かけている。重度の利用者を含め、できる限り屋外に出て、気分転換ができるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	利用者の友人や親せきの人などが外出支援をしている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車いすなどで散歩や買い物支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	遠出はしていないが、本人が行きたいところにはできるだけ家族、友人などの協力を得て支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症について、ケアカンファレンスや職員会、学習会などで勉強している。一人一人の状況を観察分析し、ケアに生かしている。	/	/	/	手伝いやレクリエーションに関しては、誰が何をできるか、何をすれば喜んでもらえるかなどを考えた上で、職員は待つことも重要であると理解して対応している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の身体状況の変化を常に観察しながら機能の維持向上に向けたケアを提供している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	待つことを大切にしながら出来ない事はさり気なくフォローしている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者個々の楽しみを把握しており活躍できるような場面を作っている。	/	/	/	編み物や絵を描くことなどの楽しみに関する希望を利用者からの聞き取って把握し、日々できるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	認知症のレベルが進んでも、継続して生きた生活役割などが出来るだけ続けられるように内容を替えたり、工夫をし取り組んでいる。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域行事、産直市、お祭りなどの参加等支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者それぞれのおしゃれや身だしなみを把握している。				衣服の汚れや乱れがある時は、他の利用者に気づかれないように、さりげなく声をかけてカバーしている。重度の利用者を含め、髪型をきれいに整えて清潔感があり、アクセサリーやブローチなどをつけておしゃれも楽しんでる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	本人の好みを大切にしながら支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人の気持ちを尊重して支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時や特別な日などその人らしい服装を楽しめるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	清潔に気をつけてプライドを傷つけないようにさりげなくフォローしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人の希望を聞いて、なじみの店に行けるように努めている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	本人らしさを保てるようにおしゃれにも気を遣いながら支援している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は生活の基礎であり、大切にしている。利用者と一緒に食事を作り、一緒に食べている。				利用者の希望を聞きながら献立を立て、利用者には食事の下ごしらえや食後の食器洗いなど、できることをしてもらっている。献立には季節感のあるものや、昔懐かしいものを取り入れている。利用者は使い勝手の良い箸やスプーンを使用している。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、サポートしながら同じものを食べている。リビングの中に厨房があるため、重度の利用者を含め、調理の音や匂いを感じることができるようになっており、献立や味付けなどの話をする中で、食事が待ち遠しくなるようにしている。献立は法人の栄養士にアドバイスを受けているほか、職員間でも利用者の栄養面について話し合い、バランス良く栄養が摂れるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	献立作りから後片付けまで利用者と一緒にやっている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	利用者と一緒に食事作りや後片付けをしながら感謝の言葉、態度を常に表わして自信や達成感に繋げている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者一人一人の好きなもの、嫌いな物、アレルギーの有無についても把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節を感じさせる献立、昔からの伝統食など利用者にとって懐かしいものを取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	常に健康状態を把握しながら、嚥下の機能も見極めながら美しく美味しくそうな盛り付けを工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個人の好みに合わせたり、使い慣れたものを持参してもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者と同じテーブルで食べながらさりげなく利用者の様子を観察し食べ方の混乱や食べこぼしなどのサポートをさりげなく行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事中静かな音楽を流したり、メニューをかいてもらったり、その日の献立について話したりして、雰囲気作りにも気を付けている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一日を通して水分摂取量と食事摂取量を記録しており管理栄養士のアドバイスも参考にしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量や水分量が少ない利用者には好みのものを勧めたり栄養補助食品を摂取してもらっている。頻回に摂取を促す事で、水分摂取はできている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	メニューは管理者がチェックしており同一敷地内にある施設の栄養士にアドバイスを受けている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日新鮮な材料を購入しており、手洗いの励行、ビニール手袋の使用など衛生管理には注意している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後の口腔ケアは欠かさず行い口腔ケアの重要性は理解している。				食後の口腔ケアは、利用者が自分でやっているが、職員は見守りながら口腔内の観察を行っている。常日頃から口腔内をチェックし、清潔感が保持できるようにしており、口腔内に異常などがある時は、すぐに訪問歯科を受診するなど、口腔ケアには万全を期している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの介助をしながら観察し、口の中の状態を把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診察の歯科医から情報を得て日常の口腔ケアに生かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後口腔ケアを支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	利用者の出来るところは声掛けにて支援し、難しそうな部分は介助しながら口腔内の状態に気を付けている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	歯科を受診したり、訪問診察を利用したりしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易にオムツを使用しないで出来るだけ普通の下着を使用するようにしている。				1日を通して布パンツにパッドを使用している利用者や、紙パンツを外出時や夜間に使用している利用者が多い。トイレで排泄してもらえよう、利用者の様子を見ながらの対応を心がけており、利用者が力を入れて落ち着きがなくなった時などを見計らい声をかけてトイレに誘導している。便秘の利用者が多く、水分摂取や運動、便秘に効くセンナ茶を取り入れる等便通改善にも取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	申し送りやカンファレンス、学習会で便秘の弊害について理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	細かく記録するようにして、一人一人のパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	一人一人に合った排泄介助を行っており、変化があれば、すぐに見直し、検討し対応している。			◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	カンファレンスで話し合ったり訪問看護師とも相談して改善に向けた取り組みをしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄の記録を見ながら失敗をしないように早めの誘導、言葉かけを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	職員が一方的に選択しないで、本人や家族と話し合いながら検討し使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて適切と思われるものを使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	なるべく薬に頼らないようにヨーグルトや食物繊維の多い商品を摂取したり、毎日散歩や体操を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	出来るだけ利用者の希望に添うようにし毎日入りたい利用者は毎日入浴したり、お湯の温度や、入浴時間も一人一人に合わせているが、夜間浴は難しい。			◎	入浴は週2回を基本に支援している。利用者の希望があれば、毎日入浴したり、入浴日を変えたりして臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	一人一人がゆっくり入れるように支援している。焦らずようなことはなく十分待って入浴してもらっている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来るところは見守りながらや少しの介助で入浴できるようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	職員が交代したり時間をずらして声掛けしたりして気持ちよく入浴できるように工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックをして健康状態を見極めながら入浴の可否を決める。入浴後も水分補給を促しながら様子を観察している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	1時間毎の巡回で入眠、覚醒時間を確認し、睡眠パターンを把握している。	/	/	/	日中利用者には活動的に過ごしてもらうようにしており、できる限り薬に頼らないようにしている。夜間は1時間ごとに利用者の睡眠状態を確認し、不眠が続いている場合は、医師に相談して適切な指示を受けて対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	不眠の原因を検討してできるだけ日中の活動性を上げて一日のリズムを整えるようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	出来るだけ薬に頼らず職員で検討しながら、医師にも相談し総合的な支援をしている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて休息を促したりしながら取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	要望があれば、支援手紙を書くことを促したりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	はがきの表書きをして支援したり電話をかけたい時には支援をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	周囲に聞かれないようにプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	返事を促したり、はがきや便せんなどを用意している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には理解を求めて依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を使うことを支援している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	職員と一緒に買い物に行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近隣のスーパーでは協力を得られている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談してできるだけ希望を叶えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	家族及び本人と話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的には預り金はないようにしているがやむ負えない場合は出納帳などに記入し家族の同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	出来るだけ本人や家族の要望を聞けるよう取り組んでいる。	◎	/	○ 家族に会いに行ったり、墓参りをしたり、コンサートや展示会の鑑賞をしたりして、利用者の要望に柔軟に対応している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関には花を生けたり、日中は玄関は開放している。	◎	◎	○	玄関には生け花や絵があり、ユニット間を結ぶ空間には卓球台やベンチなどが置かれ、くつろげる空間となっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	花を生けたり、カレンダーや職員と利用者で作った置物をおいたり、タペストリーをかけたりして心地よい雰囲気作りを心がけている。	◎	◎	◎	共用空間はゆっくり落ち着いた雰囲気になっており、窓からの眺めも良く、四季の移ろいを感じることができる。ユニットには畳のコーナーがあり、利用者は座って洗濯物をたたんだり、ゆっくり会話したりしている。掃除が行き届き、清潔感がある。季節の生け花や手芸作品、折り紙細工を飾り、居心地の良い空間を作っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は毎日行い音や匂いなどにも注意している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活感を大切にし季節の花を飾ったり、年中行事のものを置いたりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ソファや和室を活用している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	ドアをしめたりカーテンを利用したりしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入所時には使い慣れたものの搬入を促し、その後も家族と相談しながら好みのものなどを用意している。	◎	/	◎	居室にはベッドやたんすなどが備えつけられており、利用者は家族の写真や思い出の品などを持ち込み、過ごしやすいようにしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	出来るだけ自立できるように文字で示したり歩きやすいように工夫している。	/	/	◎	建物内は文字や色で案内表示し、利用者に分かりやすいように工夫しているほか、居室を利用者が自分で掃除できるようにするなど、安心して自立した生活が送れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	利用者が混乱や失敗しないように工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	リビングや台所などに安全に考慮しながら馴染みのものや好みのものをさりげなく置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中、ユニットの玄関や居室の窓は施錠はしていないが建物全体に電子ロックがあり解錠が困難である。	◎	○	△	職員は研修等により、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中ユニット間の出入口は施錠されておらず、自由に行き来できるようになっているが、建物全体のエレベーターに電子ロックがあり、職員でなければ解錠が困難なため、今後は利用者が自由に外に出られるように工夫して欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	家族には施錠しないことの理解をしてもらえよう話している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	出来るだけ外出支援をしたり散歩に行ったりと自由に暮らしていけるように支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	ケース記録やアイバット入力で利用者一人一人の情報を正確に把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	常に体調を観察しており変化があれば看護師に伝達し記録にも残している。				
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	変化があれば看護師に相談したりかかりつけ医に受診したりできている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人および家族の希望を大切にしている。かかりつけ医との関係を築くように努めている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人および家族の希望を大切にしている。かかりつけ医との関係を築くよう受診介助をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は速やかに報告し家族と相談し合意を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にはサマリーを作成し注意事項を伝達している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時には頻回に面会をして情報を収集し早期退院を実現している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期受診などで関係を作っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	身体状況に関する些細な変化でもその都度訪問看護師に伝えて相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制を整えて24時間訪問看護ステーションに連絡が出来るようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日ごろから毎日の身体状況を確認し記録をとっている。異変があれば看護師に相談し対応し早期発見、受診に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤情報をよく理解し副作用などには特に注意している。特に薬が変わったり、新しい薬になった時は注意して様子観察している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬の危険性を理解してそれを防ぐために職員2名で名前、服薬時間の確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬に関しては日常の観察を行い、主治医と相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	新しい薬を服薬した時や何か変化が見られる時は記録し看護師や医師に情報提供している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入院時に説明し、その後状態に変更があれば、本人、家族と話し合いながら、方向性を決めていく。	/	/	/	看取りの指針や重度化した場合の対応の方針があり、実際に看取り支援を行う場合は、利用者や家族、主治医、看護師、介護職員などの関係者で話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化、終末期に関しては主治医とも話し合い検討している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	利用者の状態を見極めながら、職員とも話し合い、現在の職員の力量を見極めて検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	十分な説明を行っており理解を得ていると思う。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	訪問看護、医師、職員、家族などとの連携を取りながらの体制をとれるように検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の話の聞き出来るだけ葛藤や不安を取り除くように支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症について定期的に学習会をしたり研修に行ったりしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを準備したり感染症対策の物品を常に用意している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染症センターからの発生状況、対策などを職員に周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市のホームページや県の感染症情報などから情報の収集をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は感染予防マニュアルに沿った手洗いやうがいを、利用者、面会者にも手洗い、手指消毒などを行ってもらっている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族と利用者をいかに支援するかを常に話し合いながら、家族の気持ちに共感し、ともに支えられる環境を築いている。	/	/	/	花火大会やお祭り、利用者の誕生日などのイベントの際には家族に案内し、一緒に食事をして楽しんでもらうようにしている。家族には定期的に手紙や写真を送り、利用者の様子を報告している。事業所の設備改修などの運営面は、その都度報告して理解を得られているが、職員の異動や退職については、一部の家族に伝わっていないため、今後は広報誌に職員のことを記載して送るなど、工夫した取組を期待したい。家族の面会時には、必ず声をかけて利用者の様子を伝えるなど、話しやすい雰囲気づくりに努めており、家族から気軽に相談を受けている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族が面会に来られた時にはお茶を提供しゆったり過ごしてもらえるような雰囲気を作っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	外出行事や散歩など参加する機会を作り呼びかけもしている。一緒に昼食をとる機会も作っている。	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的に手紙を出したり、写真を送付したり、電話で報告したりして日常の様子を伝えている。	/	○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族の意向、思いを理解したうえで利用者の現状を報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症に対する理解を深めてもらったり一緒に行事に参加してもらったりしながら家族との良い関係を築けるように支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事や設備改修などは報告しているが、職員の異動、退職はすべての家族には報告できていない。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事などを通して交流が図れるようにしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入所時に説明を行い、何か機会があるたびにリスクと支援の兼ね合いを話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	日頃から出来るだけコミュニケーションを取るよう心掛けている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	説明し理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族に事前に退去についての説明を丁寧に行っており納得いく退去先を支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書で示し説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などで説明し、理解を図っている。	/	◎	/	事業所の周辺にあるスーパーや飲食店に行き、買い物や食事を楽しんでいるほか、行きつけの美容室を利用するなど、利用者が普段から地域と関わりながら暮らせるようにしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩に行ったり近所の店や美容室を利用したりと日ごろから地域の中で暮らす機会を持っている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	近所の店や美容室など顔見知りになった地域の人には支援してもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	建物の構造上気軽に立ち寄ることは難しい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外出時は挨拶したり話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	お話会やオカリナ演奏など、定期的に支援してもらえたり、友人が外出支援することもある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	近所のスーパーに買い物に行ったり、図書館を利用したり、美容室や喫茶店などに行き楽しんでいる。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	美容室、喫茶店、店、図書館などに行き関係を深め、商店街の催し物などにも出かけていき参加したり、情報を得たりしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加している。	×	/	△	運営推進会議には地域の協力者や家族の参加があり、サービスに関する説明などを行っているが、参加者が少なく固定化しているため、会議に参加しやすいように日程を調整することや、興味や関心の持てる議題を考えるなど、工夫した取組みを期待したい。会議では、外部評価の取組み状況などについて報告し、参加者から得られた意見を踏まえて、日々の運営に活かせるように話し合っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告、説明している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	運営推進委員からの提案や意見を取り入れて、行事やケアに生かしながら取り組んでいる。取組内容と結果報告を行っている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	出席しやすい時間帯、日程に調整している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を常に意識するようにことあるごとにカンファレンスや職員会などで伝えて、日々のケアに取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	グループホームの玄関に理念を掲げ機会を見て伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	可能な限り切り色々な研修に参加するようにしている。	/	/	/	代表者は、職員が毎月の法人内研修や、外部研修に参加できるようにしており、職員のスキルアップやモチベーションアップにもつなげている。職員に日々のストレスが溜まることのないよう管理者やユニットの責任者に気を配るように指示しているほか、年1回のストレスチェック体制を整備するなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	現場での教育、学習を大切にして、年間計画をたてて研修に参加できるようにして、介護の質を上げることを目指している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めていると思われる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	愛媛県地域密着サービス協会への参加や市の組織にも参加や、オレンジカフェなどにも参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいると思われる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修会を行ったり、カンファレンスを行ったりして理解している。	/	/	/	職員は虐待防止に関する研修などを受け、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について理解・共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎日ケアについて意見を交わしたり話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	カンファレンスや職員会にて話し合い改善するようにしている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日常的に声をかけたり、出来るだけ話を聞いてストレスの軽減に努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	職員会やカンファレンスなどで学習し理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	カンファレンスや日常のケアのなかで話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族に対しても身体拘束について説明し理解を図っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	制度についてある程度は学習している。研修会にも参加している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	家族の相談にのったり、情報を提供している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	申し出があった時には専門機関との連携をとっている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に講習を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	職員で検討し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	センサーマットの活用や、嚥下状態など検討し事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	手順に沿って対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば速やかに対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	苦情箱を設置したり、話し合ったりする機会を作っている。			○	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞き、家族からは運営推進会議や面会時に意見などを聞いている。管理者は職員会議で職員からの意見を聞いているほか、日々の仕事の中でも伝えられる関係ができており、職員から得られた意見などを運営に活かせるように話し合う機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情箱を設置したり、話し合ったりする機会を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	公的な窓口の情報提供を相談があれば行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	時々聞くことがある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員と話し合っているいろいろな提案について検討している。			◎	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の目的を理解し年1回は全員で自己評価に取り組んでいる。				サービス評価は職員も参加し、管理者が内容をまとめている。サービス評価の結果や改善点については、今後の運営に活かせるように職員会議で話し合い、その結果を運営推進会議で報告し、参加者からは具体的に意見を出してもらおうなど、取組みのモニターをしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	カンファレンスで課題を確認したり、学習の機会として取り組んでレベルアップにつなげている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議などで取り組みを報告し意見をもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員会や運営推進会議で成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	防災マニュアルを作成して回覧し周知している。				防災に関する訓練は年2回避難訓練や消火訓練を実施しているが、想定する訓練内容が固定化している。備蓄は法人として3日間程度備えている。今後は防災に関する訓練時に得られた感想などを踏まえ、地域と合同で避難訓練に取り組むなど、緊急災害時に利用者の安全確保に万全を期すことができる協力体制の構築に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の避難訓練に参加している。	x	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	自治会の避難訓練に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症を考える会で講演会を企画したり、実践報告を行った。オレンジカフェで認知症について話した。				地域の高齢者に対する相談窓口として法人全体で取り組んでいるが、地域の相談ニーズを充足するほどの相談支援には至っていないため、今後は事業所の特色を地域によりPRし、地域の相談拠点となる事業所を目指して欲しい。オレンジカフェを法人ソーシャルワーカーの協力のもと、市や地域包括支援センターなどと連携して取り組んでいる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営推進会議などで相談支援を行っている。オレンジカフェにて相談支援を行っている。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生の受け入れに協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括支援センターと連携をしたり、他事業所とイベントを行っている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870500810
事業所名	グループホームおてだま
(ユニット名)	風ぐるま
記入者(管理者)	
氏名	岩井彰子
自己評価作成日	令和1年9月2日

<p>【事業所理念】 一人一人に寄り添って その人らしく生き生きと 地域とのつながりを大切に</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 17年前に既存の建物を活用し、介護老人福祉施設や介護老人保健施設なども含んだ複合施設として地域の高齢者福祉に取り組んでいる。職員は利用者のできることやできそうなことを大切に支援しており、洗濯物干しや調理の手伝いをしてもらった時には必ず感謝の言葉を伝える等、利用者が張り合いや喜びを持って暮らせるよう配慮している。建物内は利用者に分かりやすいように文字や色でトイレ等の場所を表示して工夫しており、安心して自立した生活が送れるようにしている。</p>
--	---------------------------------	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○ 日々の会話や行動などにより推し量ったり、家族に意向を尋ねたりして、把握に努めている。</p> <p>○ 生活活動の中でよく観察している。</p> <p>○ 面会時に家族と本人の思いについて話し合っている。</p> <p>◎ 申し送りや、1日の生活情報を記録している。</p> <p>◎ 常に利用者の思いを考慮している。</p>	◎	/	/	/	○	入居時面接や、居宅介護支援事業所からの情報で、利用者の思いをくみ取っている。入居後も日々の関わりの中で得られた情報を集めている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>◎ 入所時に家族やケアマネから情報を収集している。</p> <p>◎ 日常生活を記録し把握している。</p> <p>◎ 表所や動作など見逃さないようにし、把握している。</p> <p>◎ 行動や表情に不安がある時は、常に要因を考えて、把握に努めている。</p> <p>◎ 24時間のデータを見て、日々の把握をしている。</p>	◎	/	/	/	○	利用者の生活歴や人間関係、暮らしの様子などの情報を事前に家族など関係者から収集し、入居時面接調査票に記入している。入居後も利用者との関わりや家族の面会時等に新たに得られた情報を、その都度追記して申し送りしている。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○ 本人の視点で考えて色々な機会に検討している。</p> <p>◎ 本人や家族、職員と話し合っている。</p> <p>○ 計画、実行、評価、改善を実行することにより課題を明らかにしている。</p>	○	/	/	/	○	入居前から利用者に関する情報をまとめ、約1か月の期間を使って職員に周知するようにしている。職員はその情報を基に、ケアカンファレンスで意見を出している。

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	生活を観察し、本人とのかかわりの中で探っている。				月2回実施しているケアカンファレンスには家族の参加もあり、利用者の日々の暮らしにおける思いを踏まえた関わりや支援について共に検討を行っている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族や親族などの意見を尊重している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活が継続出来るよう、快適に過ごせるようにプランを考えている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力を盛り込んでいる。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	毎日の記録はケアプランに基づいて行っている。			◎	日誌と申し送りノートには、見たことを確認できるサイン欄があり、職員間の情報共有はしっかりとできている。介護計画に沿ってケアが実践できたかは「24時間シート運動ケース記録」に詳しく記録し、日々の支援に繋がっている。利用者の言葉や行動、職員の気づきやアイデアは、日誌や申し送りノートに記録している。利用者の言葉は職員によって感じ方が違うため、そのまま書くようにしており、そこから利用者の興味や気になることをくみ取っている。9月からはタブレット端末を使って効率的に記録し共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録と月末に1ヶ月の見直し、評価をしている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者個別に支援の内容を毎日記録している。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別に日誌や申し送りに記録している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画の期間内で見直しは出来ている。			◎	6か月を基本として介護計画を見直している。利用者の状況については毎月確認し、モニタリングを行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、介護計画を見直して現状に即した計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	現状確認は日々行い、月末に評価している。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身の変化があった時は見直しを行い新たな計画を作成している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	カンファレンスを定期的に行って情報を共有し、緊急案件がある時はその都度職員間で話し合っている。			○	月2回のケアカンファレンスは、職員や家族が参加して行っている。参加できない職員には事前に意見を出してもらい、検討した結果を申し送りや議事録で伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	色々工夫し、意見を言いやすい雰囲気である。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来るだけ多くの職員が参加できるよう検討している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	申し送りや議事録の回覧で伝えるたり、直接申し送ることもある。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りなど書面でできている。			◎	毎朝の申し送りのほか、日誌や申し送りノートの確認と口頭での状況説明などで情報共有している。日誌や申し送りノートには見たことを確認できるサイン欄があり、回覧後にサインして確実に情報が伝わるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日々の申し送りは出勤時に必ず確認し緊急の時は電話で連絡している	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日常的に気持ちを探り、叶えられるように努力をしている。	/	/	/	塗り絵や漢字探しなど、日中にとこのような活動をするかは利用者が自分で決めている。調査時には食後の飲み物を利用者が選んでいる姿を見ることができた。洗濯物干しや居室の掃除、調理の手伝いを希望する利用者には声をかけて行ってほしい、必ず感謝の言葉を伝えており、利用者は張り合いや喜びを持って暮らしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日常生活の中で自己決定できる機会を作り、選べるまで待つようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者それぞれの若生力に合わせて、自己決定できたり、納得出来るように支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースや習慣に合わせて支援をしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	常に笑顔で声掛けし、安心できるような環境を提供している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	本人の思いを知ろうとし、表情や、全身の反応をキャッチして意向に沿うように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権・尊厳とは何かを学習し、利用者の誇りや、プライバシーを大切にしたい対応を心がけている。	◎	◎	○	職員は人権や尊厳について研修で学び、利用者の誇りを大切にしながら支援している。トイレ誘導時の声かけは、利用者が動きそうなタイミングを見計らい、さりげなく行っている。居室に入る際にはノックや声かけをするように心がけているが、ノックをしないで入ることもあるため、利用者専用の場所であることを改めて理解し、プライバシーに配慮するよう努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者に対して誘導する時はさりげない声掛けをして、自然に感じる支援を心がけている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	ドアをしめたりカーテンを利用したりしてプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室する時はノックをしたり、声掛けし許可を得ている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	カンファレンスや職員会で学習し、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	昔の行事や、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しめる関係性を築いている。些細な行動でも「ありがとう」の言葉を使用し、感謝の気持ちを表す。	/	/	/	食堂では利用者同士の相性を踏まえて席を決めている。日常においてもトラブルになる前に職員が仲介するなど、利用者同士良い関係が築けるように配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	お互いに助けあえたり、なにかと協力できるような場面を作っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士の相性などを考えて、リビング席を決めたり、トラブルになる前に職員が介入して対応している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルは事前に回避できるようにしたり、トラブルが発生したら速やかにさりげなく回避できるようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームおてだま

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人との会話やケース記録、家族の話などで把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ケース記録や、本人、家族から聞いて把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所に出かけたり、よく行っていたスーパー、喫茶店や美容室を利用したりして関係が続くようにしている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会者には湯茶、テーブルなどを提供し過ごしやすい工夫をしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	毎日屋上、施設内などの散歩を行っている。できるだけ希望に添えるようにしているが十分ではない。	△	○	○	毎日屋上や施設内の他ユニットなどを散歩し、歩いて5分程度の公園にも出かけている。重度の利用者を含め、できる限り屋外に出て、気分転換ができるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	親せきの人などが外出支援をしているが十分ではない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車いすなどで散歩を支援している。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	季節の花を見学に行ったり、外食を家族とともに出かけていたりしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症について、色々な学習会、研修に参加し、勉強している。一人一人の状況を観察分析し、ケアに生かしている。				手伝いやレクリエーションに関しては、誰が何をできるか、何をすれば喜んでもらえるかなどを考えた上で、職員は待つことも重要であると理解して対応している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者の身体状況の変化を常に観察しながら機能の維持向上に向けたケアを提供している。特に身体面の機能低下については看護師とも相談しながら、維持向上に取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	待つことを大切にしながら出来ない事はさり気なく支援している。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者一人一人の楽しみを把握しており、できるだけ活躍できるような場面を作っている。				編み物や絵を描くことなどの楽しみに関する希望を利用者からの聞き取って把握し、日々できるように支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症が進んでも、生活役割などが出来るだけ続けられるように内容を工夫し取り組んでいる。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	産直市、お祭りなどの参加しているが、十分とは言えない。				

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	一人一人の身だしなみ、おしゃれを把握している。				衣服の汚れや乱れがある時は、他の利用者に気づかれないように、さりげなく声をかけてカバーしている。重度の利用者を含め、髪型をきれいに整えて清潔感があり、アクセサリーやブローチなどをつけておしゃれも楽しんでる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	一人一人の好みに応じた服装を支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	日常生活の中で観察し、本人の気持ちを尊重して支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節や行事に合わせたその人らしい服装を楽しめるように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	清潔に気をつけてプライドを傷つけないよう声掛けしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	なじみの美容院を利用できるように支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを保てるようにおしゃれにも気を遣いながら支援している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	昼食と一緒に作り、一緒に食卓を囲むことにより食事の大切さを理解している。				利用者の希望を聞きながら献立を立て、利用者には食事の下ごしらえや食後の食器洗いなど、できることをしてもらっている。献立には季節感のあるものや、昔懐かしいものを取り入れている。利用者は使い勝手の良い箸やスプーンを使用している。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、サポートしながら同じものを食べている。リビングの中に厨房があるため、重度の利用者を含め、調理の音や匂いを感じることができるようになっており、献立や味付けなどの話をする中で、食事が待ち遠しくなるようにしている。献立は法人の栄養士にアドバイスを受けているほか、職員間でも利用者の栄養面について話し合い、バランス良く栄養が摂れるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理と後片付けを利用者と一緒に行っている。			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	利用者と一緒に食事作りや後片付けをしながら感謝の言葉、態度を常に表わして自信や達成感に繋げている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者一人一人の好きなもの、嫌いな物、アレルギーの有無についても把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節を感じさせる献立、昔からの伝統食など利用者にとって懐かしいものを取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	常に健康状態を把握しながら、美しく美味しく盛り付けや料理に合った器を工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れたものを持参してもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者と同じテーブルで食べながら利用者の様子を見守り、サポートをさりげなく行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事中BGMを流したり、メニューをかいてもらったり、その日の食事について話したりして、食欲をあげるよう気を付けている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一日を通して水分摂取量と食事摂取量を記録しており管理栄養士のアドバイスも参考にしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量や水分摂取量が少ない利用者には、飲み物の工夫や回数、タイミングを工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	メニューは管理者がチェックしており同一敷地内にある施設の栄養士にアドバイスを受けている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日新鮮な材料を購入しており、手洗いの励行、ビニール手袋の使用など衛生管理には注意している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後の口腔ケアは毎回行い口腔ケアの重要性は理解している。				食後の口腔ケアは、利用者が自分でやっているが、職員は見守りながら口腔内の観察を行っている。常日頃から口腔内をチェックし、清潔感が保持できるようにしており、口腔内に異常などがある時は、すぐに訪問歯科を受診するなど、口腔ケアには万全を期している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの介助をしながら観察し、口の中の状態を把握している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問診察の歯科医から情報を得て日常の口腔ケアに生かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後口腔ケアを支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	利用者の出来るところは行ってもらい、他は介助しながら様子観察している。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	歯科を受診したり、訪問診察を利用したりしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	安易にオムツを使用しないで出来るだけ普通の下着を使用するようにしている。				1日を通して布パンツにパッドを使用している利用者や、紙パンツを外出時や夜間に使用している利用者が多い。トイレで排泄してもらえるように、利用者の様子を見ながらの対応を心がけており、利用者が力を入れて落ち着きがなくなった時などを見計らい声をかけてトイレに誘導している。便秘の利用者が多く、水分摂取や運動、便秘に効くセンナ茶を取り入れる等便通改善にも取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	研修会やカンファレンス、学習会で便秘の弊害について理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄記録に細かく記録し、把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	毎日の排泄記録を検討しながら、トイレでの排泄を支援している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で話し合ったり訪問看護師とも相談して改善できるように検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄の記録を見ながら失敗をしないように早めの誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人や家族と話し合いながら検討し使用している、緊急におむつの使用が生じた場合、家族に連絡し了承を得ている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて適切と思われるものを使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	ヨーグルトや食物繊維の多い食事を心がけ、散歩や体操を毎日行えるように支援している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ利用者の希望に添うようにしているが、夜間浴は難しい。	◎		◎	入浴は週2回を基本に支援している。利用者の希望があれば、毎日入浴したり、入浴日を変えたりして臨機応変に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	一人一人がゆっくり、くつろいで入れるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来るところはしてもらい、職員の見守りなか、安心して入浴できるようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	職員が交代したり時間をずらして声掛けしたりして気持ちよく入浴できるように工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタルチェックをして健康状態を見極めながら入浴の可否を決める。入浴後も水分補給を促しながらようすを観察している。				

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	入眠後1時間ごとに様子を確認し記録している。	/	/	/	日中利用者には活動的に過ごしてもらうようにしており、できる限り薬に頼らないようにしている。夜間は1時間ごとに利用者の睡眠状態を確認し、不眠が続いている場合は、医師に相談して適切な指示を受けて対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	できるだけ日中の活動性を上げて一日のリズムを整える工夫を行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	出来るだけ薬に頼らず職員で検討しながら、医師にも相談し総合的な支援をしている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者一人一人の状態に合わせて休息や昼寝を促している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話や、支援し手紙を書くことを促したりしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話をかけた際には支援をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	返事を促したり、はがきや便せんなどを用意している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族には理解を求めて依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の大切さやお金を津描くことの意義を理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物に行って自分で選んで購入してもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近隣のスーパーでは協力を得られている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談してできるだけ希望を叶えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族及び本人と話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	出納帳などに記入し家族や本人の同意を得るようにしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	ニーズによって対応し、出来るだけ実現している。	◎	/	○	家族に会いに行ったり、墓参りをしたり、コンサートや展示会の鑑賞をしたりして、利用者の要望に柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関には花を生けたり、日中は玄関は開放している。	◎	◎	○	玄関には生け花や絵があり、ユニット間を結ぶ空間には卓球台やベンチなどが置かれ、くつろげる空間となっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節の行事の飾りつけや、常に花を飾って家庭的な雰囲気を大切にしている。	◎	◎	◎	共用空間はゆっくり落ち着いた雰囲気になっており、窓からの眺めも良く、四季の移ろいを感じることができる。ユニットには畳のコーナーがあり、利用者は座って洗濯物をたたんだり、ゆっくり会話したりしている。掃除が行き届き、清潔感がある。季節の生け花や手芸作品、折り紙細工を飾り、居心地の良い空間を作っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は毎日行い音や匂いなどにも注意している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾ったり、行事の飾りを置いたりして気を配っている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	居室や和室を利用している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	直接見えないようにドアをしめたりカーテンを利用したりしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの物や写真を置いたりしている。	◎	/	◎	居室にはベッドやたんすなどが備えつけられており、利用者は家族の写真や思い出の品などを持ち込み、過ごしやすいようにしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	出来るだけ自立できるように文字で示したり歩きやすいように工夫している。	/	/	◎	建物内は文字や色で案内表示し、利用者に分かりやすいように工夫しているほか、居室を利用者が自分で掃除できるようにするなど、安心して自立した生活が送れるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険を予測し、利用者が混乱しないように工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	リビングや台所などに馴染みのものや好みのもなど(新聞、雑誌など)をさりげなく置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	建物全体に電子ロックがあり解錠が困難であるが、ユニットの玄関、居室の窓は開放している。	◎	○	△	職員は研修等により、玄関等に鍵をかけることの弊害を理解している。日中ユニット間の出入口は施錠されておらず、自由に行き来できるようになっているが、建物全体のエレベーターに電子ロックがあり、職員でなければ解錠が困難なため、今後は利用者が自由に外に出られるように工夫して欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	家族には施錠しないことの理解をしてもらえるよう話している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外出要求には出来るだけ応えて、外出したり、外気浴は頻繁に行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	個別のケース記録や申し送りで把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々のバイタル測定、身体状態の観察し、記録している。変化があれば看護師に伝達し記録にも残している。				
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	変化があれば看護師に相談したり、かかりつけ医に受診したりできている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人および家族の希望を大切にしている。かかりつけ医との関係を築くように努めている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人および家族の希望を大切にしている。かかりつけ医との関係を築くよう受診介助をしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は速やかに報告し、家族とその都度話し合い合意を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にはサマリーを作成し注意事項を伝達している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時には頻回に面会をして情報を収集し早期退院を実現している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	定期受診などで関係を作っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	身体状況に関する些細な変化でもその都度訪問看護師に伝えて相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制を整えて24時間訪問看護ステーションに連絡が出来るようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日ごろから毎日の身体状況を確認し記録をとっている。異変があれば看護師に相談し対応し早期発見、受診に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬剤情報をよく理解し副作用などには特に注意している。特に薬が変わったり、新しい薬になった時は注意して様子観察している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬の危険性を理解してそれを防ぐために職員2名で名前、服薬時間の確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	毎日、観察を行い状況把握につとめて、変化があれば主治医と相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	新しい薬を服薬した時や何か変化が見られる時は記録し看護師や医師に情報提供している。				

愛媛県グループホームおてだま

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入院時に説明し、その後状態に変更があれば、本人、家族と話し合い意向を確認している。	/	/	/	看取りの指針や重度化した場合の対応の方針があり、実際に看取り支援を行う場合は、利用者や家族、主治医、看護師、介護職員などの関係者で話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化、終末期に関しては職員や看護師、主治医とも話し合い検討している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員と話し合い、現在の職員の力量を見極めて検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	「できること」「できないこと」は説明を行っており理解を得ていると思われる。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	訪問看護、医師、職員、家族などとの連携を取りながらの体制をとれるように検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の話の聞き出来るだけ葛藤や不安を取り除くように支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	学習会や研修などで定期的に取り組んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを準備し、感染症対策グッズを準備し早期対応できるように努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	感染症情報センターからの発生状況、対策などを職員に周知している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市のホームページや県の感染症情報などから情報の収集をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いは常に行っており、来訪者にも手指消毒、マスクを促している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の気持ちを出るだけ聞きながら、ともに考え、支えられる関係を築いている。				花火大会やお祭り、利用者の誕生日などのイベントの際には家族に案内し、一緒に食事をして楽しんでもらうようにしている。家族には定期的に手紙や写真を送り、利用者の様子を報告している。事業所の設備改修などの運営面は、その都度報告して理解を得られているが、職員の異動や退職については、一部の家族に伝わっていないため、今後は広報誌に職員のことを記載して送るなど、工夫した取組を期待したい。家族の面会時には、必ず声をかけて利用者の様子を伝えるなど、話しやすい雰囲気づくりに努めており、家族から気軽に相談を受けている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族が面会に来られた時にはお茶を提供しゆったり過ごしてもらうように配慮している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	外出行事や散歩など参加する機会を作り呼びかけもしている。一緒に昼食をとる機会も作っている。		◎	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的に手紙を出したり、写真を送付したり、電話で報告して日常の様子を伝えている。		○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族の知りたいこと、不安事項などを考えて、報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症に対する理解を深めてもらったり一緒に行事に参加してもらったりしながら家族との良い関係を築けるように支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事や設備改修などは報告しているが、職員の異動、退職はすべての家族には報告できていない。		x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事や、運営推進会などを通して交流が図れるようにしている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	入所時に説明を行い、何か機会があるたびにリスクと支援の兼ね合いを話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会に来た家族とは出来るだけコミュニケーションを取るよう心掛けている。あまり来られない家族には電話などで連絡を取っている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	説明し理解を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族に事前に退去についての説明を丁寧に行っており納得いく退去先を支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文書で示し説明し同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などで説明し、理解を図っている。	/	◎	/	事業所の周辺にあるスーパーや飲食店に行き、買い物や食事を楽しんでいるほか、行きつけの美容室を利用するなど、利用者が普段から地域と関わりながら暮らせるようにしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近所のスーパーや食べ物屋さんに行ったり、美容室を利用したりと日ごろから地域の中にかかわりを持つように心がけている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	近所の店や美容室など顔見知りになった地域の人には支援してもらっている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	建物の構造上気軽に立ち寄ることは難しい	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外出時は挨拶したり話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	お話し会やオカリナ演奏、児童クラブの訪問など、定期的に支援してもらえたり、友人が外出支援することもある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	近所のスーパーに買い物に行ったり、図書館を利用したり、美容室や喫茶店などに行き楽しんでいる。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	美容室、喫茶店、図書館などに行き関係を深め、産直市など出かけていき参加したり、情報を得たりしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加している。	×	/	△	運営推進会議には地域の協力者や家族の参加があり、サービスに関する説明などを行っているが、参加者が少なく固定化しているため、会議に参加しやすいように日程を調整することや、興味や関心の持てる議題を考えるなど、工夫した取組みを期待したい。会議では、外部評価の取組み状況などについて報告し、参加者から得られた意見を踏まえて、日々の運営に活かせるように話し合っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告、説明している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	会議での提案や意見を取り入れて、行事を計画したり、ケアプランに生かしている。取組内容と結果報告を行っている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	都合の良い時間帯、日程に調整している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	自由に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	機会があるごとにカンファレンスや職員会などで伝えて、共通認識を持って実践できるように取り組んできた。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	グループホームの玄関に理念を掲げ機会を見て伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修参加を促し、法人内外の研修に参加するようにしている。	/	/	/	代表者は、職員が毎月の法人内研修や、外部研修に参加できるようにしており、職員のスキルアップやモチベーションアップにもつなげている。職員に日々のストレスが溜まることのないよう管理者やユニットの責任者に気を配るように指示しているほか、年1回のストレスチェック体制を整備するなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	現場での教育、学習を大切にして、年間計画をたてて研修に参加できるようにして、介護の質を上げることを目指している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	努めていると思われる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	愛媛県地域密着サービス協会への参加や市の組織にも参加や、オレンジカフェなどにも参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	取り組んでいると思われる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修会を行ったり、カンファレンスを行ったりして理解している。	/	/	/	職員は虐待防止に関する研修などを受け、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について理解・共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎日ケアについて意見を交わしたり話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	カンファレンスや職員会にて話し合い改善するようにしている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日常的に声をかけたり、出来るだけ話を聞いてストレスの軽減に努めている。利用者への影響がないように注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	職員会やカンファレンスなどで学習し理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	現場の状況に合わせて点検し、話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族には肥後から身体拘束について説明し理解を図っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	制度についてある程度は学習している。研修会にも参加している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	家族の相談にのったり、情報を提供している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	申し出があった時には専門機関との連携をとっている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	定期的に講習を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	記録や報告書を回覧し、職員で検討し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	センサーマットの活用や、嚥下状態など検討し事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	手順に沿って対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば速やかに対応している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	運営推進会議に参加し、意見を述べてもらったり、要望を聞いている。			○	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞き、家族からは運営推進会議や面会時に意見などを聞いている。管理者は職員会議で職員からの意見を聞いているほか、日々の仕事の中でも伝えられる関係ができており、職員から得られた意見などを運営に活かせるように話し合う機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	苦情箱を設置したり、意見をもとめたり、個別に要望を聞いている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	公的な窓口の情報提供を相談があれば行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	時々聞くことがある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員と話し合っているいろいろな提案について検討している。			◎	

愛媛県グループホームおてだま

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の目的を理解し年1回は全員で自己評価に取り組んでいる。				サービス評価は職員も参加し、管理者が内容をまとめている。サービス評価の結果や改善点については、今後の運営に活かせるように職員会議で話し合い、その結果を運営推進会議で報告し、参加者からは具体的に意見を出してもらうなど、取組みのモニターをしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	カンファレンスで課題を確認したり、学習の機会として取り組んでレベルアップにつなげている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成し取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	運営推進会議などで取り組みを報告し意見をもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	職員会や運営推進会議で成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災マニュアルを作成して回覧し周知している。				防災に関する訓練は年2回避難訓練や消火訓練を実施しているが、想定する訓練内容が固定化している。備蓄は法人として3日間程度備えている。今後は防災に関する訓練時に得られた感想などを踏まえ、地域と合同で避難訓練に取り組むなど、緊急災害時に利用者の安全確保に万全を期すことができる協力体制の構築に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署には定期的に救命救急口座を依頼している。	x	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	自治会の避難訓練に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	認知症を考える会で講演会を企画したり、実践報告を行った。オレンジカフェで認知症について話した。				地域の高齢者に対する相談窓口として法人全体で取り組んでいるが、地域の相談ニーズを充足するほどの相談支援には至っていないため、今後は事業所の特色を地域によりPRし、地域の相談拠点となる事業所を目指して欲しい。オレンジカフェを法人ソーシャルワーカーの協力のもと、市や地域包括支援センターなどと連携して取り組んでいる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	運営推進会議などで相談支援を行っている。オレンジカフェにて相談支援を行っている。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生の受け入れに協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括支援センターと連携をしたり、他事業所とイベントを行っている。			○	